

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10 月 21 日 9:08AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 40,000～50,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 40,000～47,200 ドル
(S&P500) 5000～6800

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 21,000～25,500
(ナスダック総合) 19,000～23,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

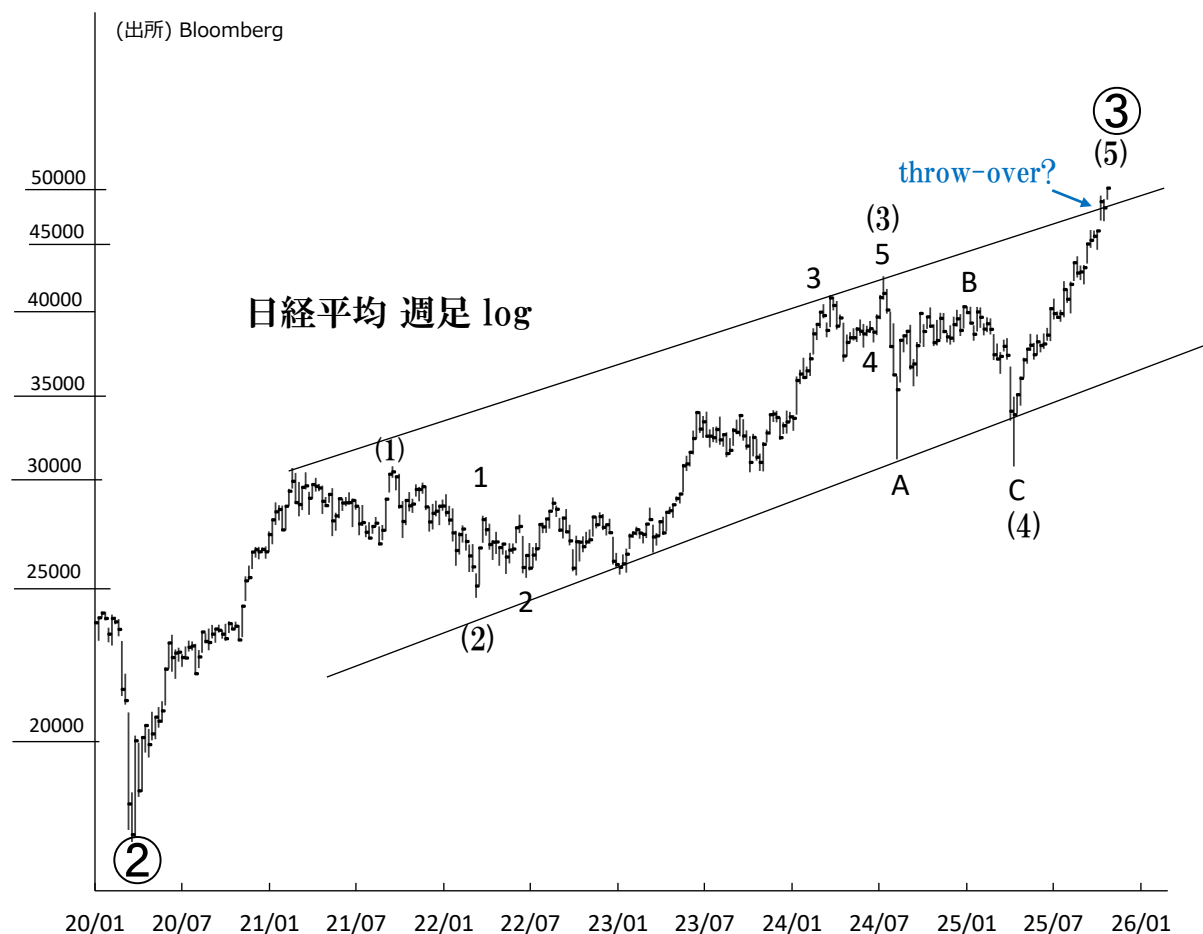
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



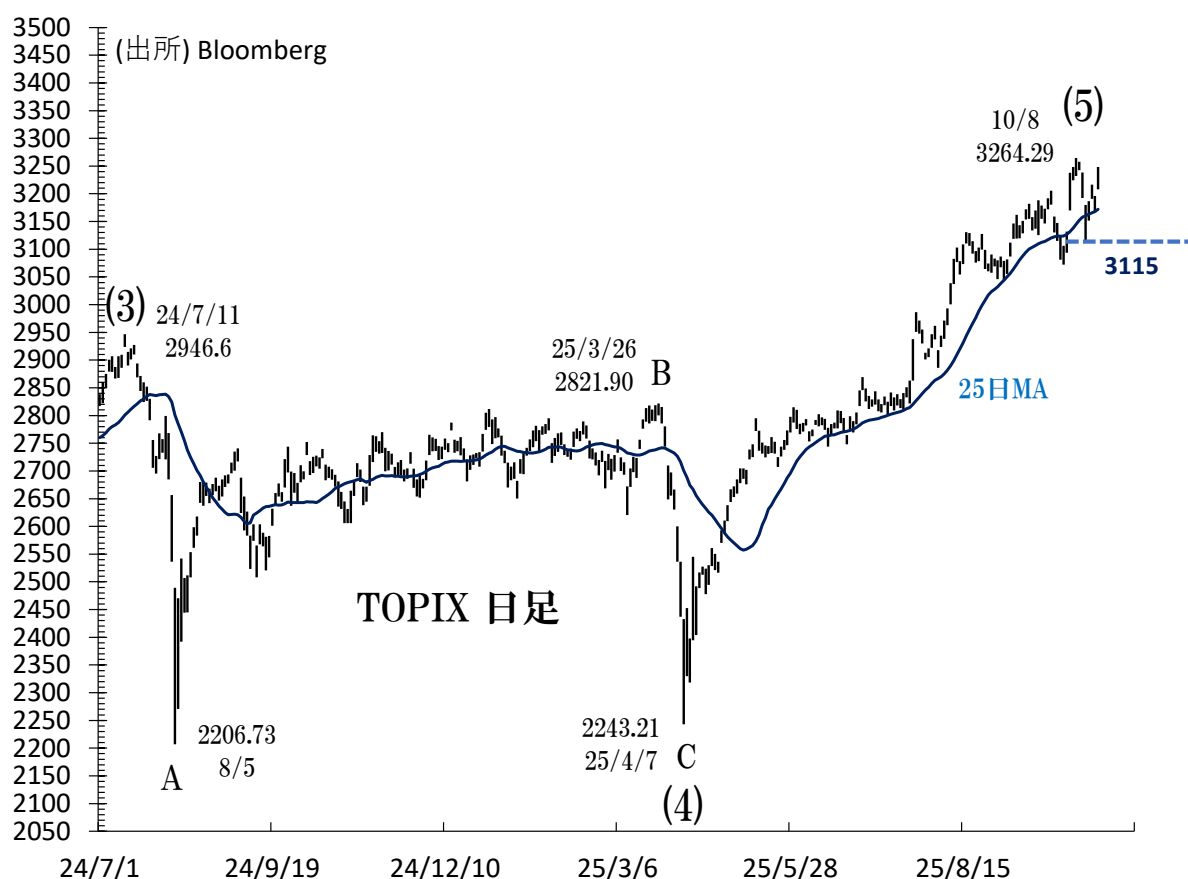
【週足 エリオット波動分析】

今年 4 月 7 日安値(30,792.74 円)からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底(16,358.19 円、20 年 3 月)からのプライマリー第③波は完成します。

10 月 20 日、日経平均はザラバと終値の両方で初めて 4 万 9000 円に乗せました。「9～10 月に日経平均が 4 万 5000 円～4 万 9000 円」という筆者の予想は十二分に達成されました。

4 月 7 日週から今週は 28 週目です。週次トレンドは半年程度で一巡することが珍しくなく、**第③波天井は 10 月中に付ける可能性があります。**

直近の水準は、21 年 2 月高値以来の上チャネルライン水準を明確に上回っていますが、これは強気相場の最後を飾るスローオーバー(throw-over)の可能性があります。



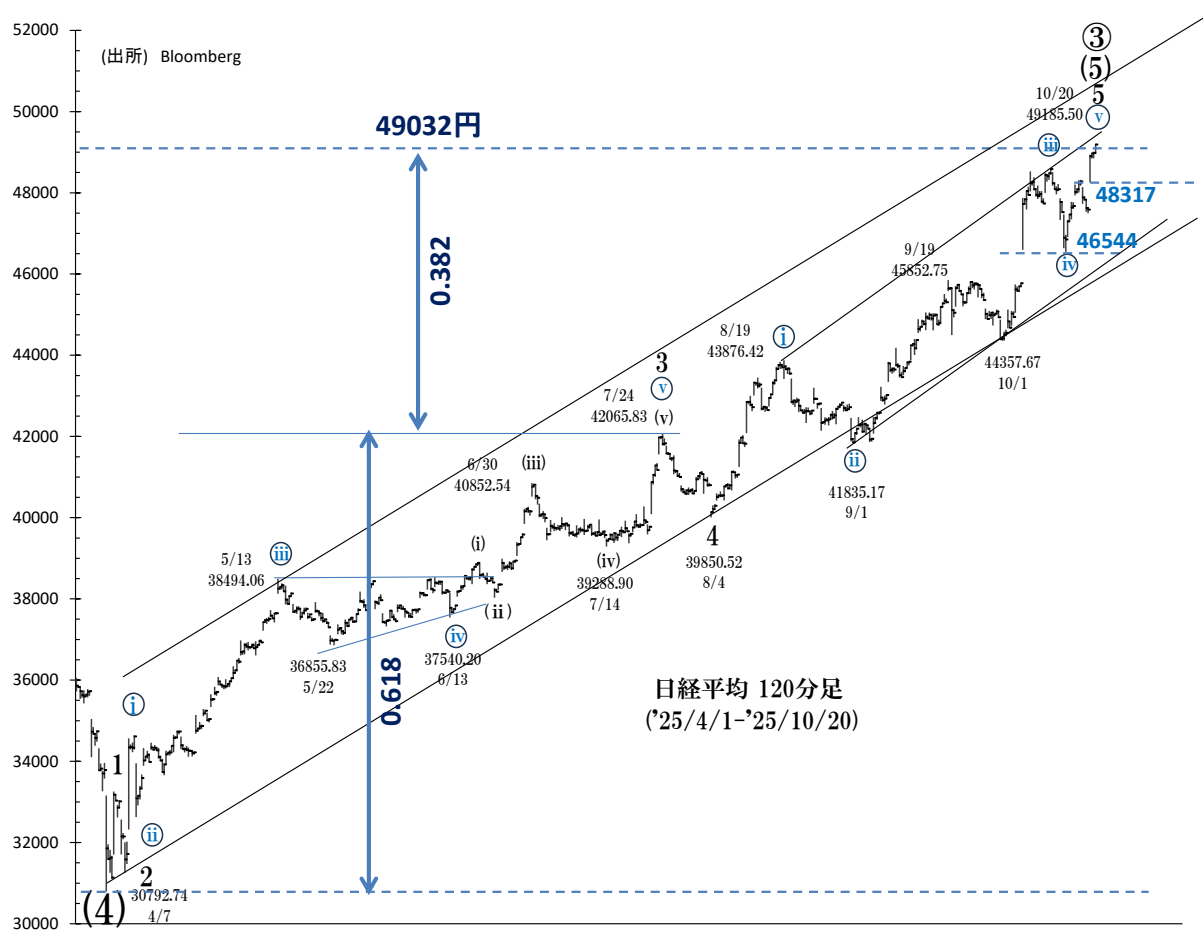
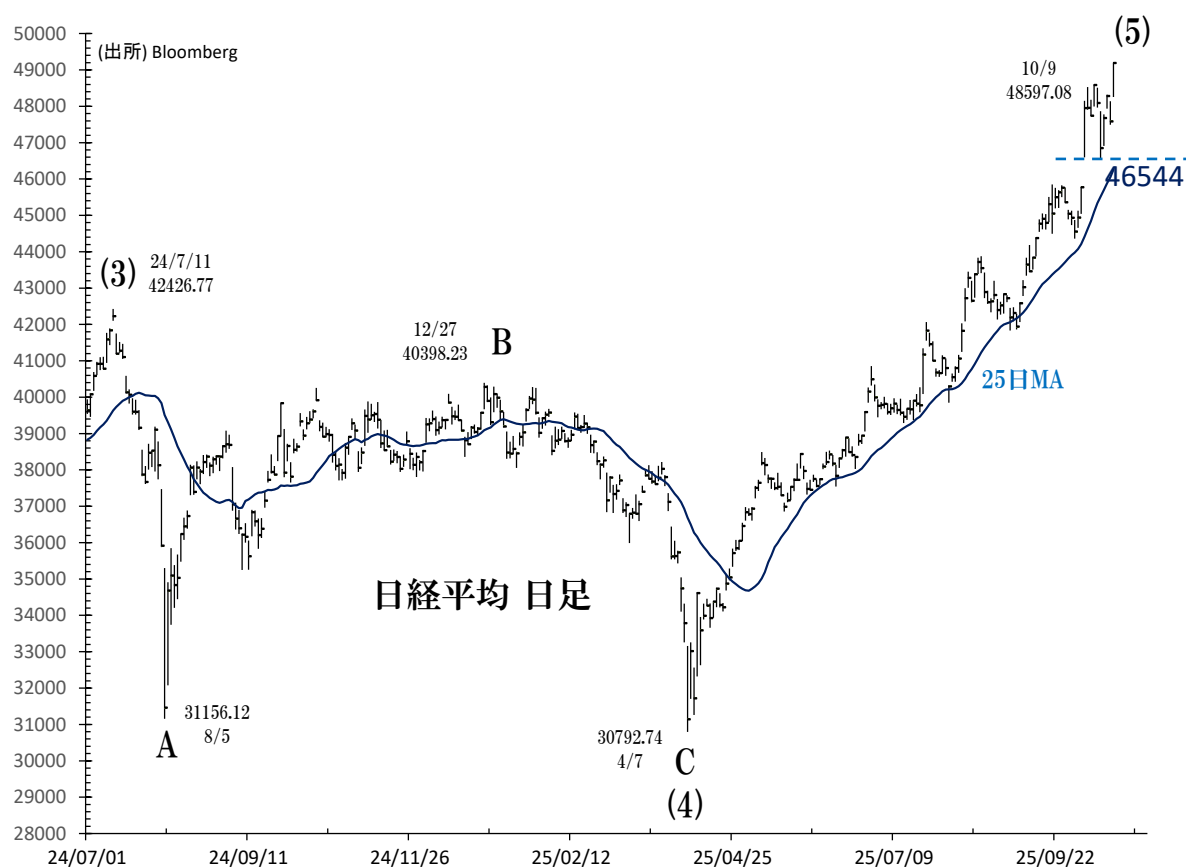
[TOPIX]

3264(10/8 高値)が、4 月以来のラリー終点かを見極める局面を迎えています。

ちなみに日経平均の史上最高値更新(10/20)は、今のところ TOPIX によっては確認されてはいません。短期的に 3264 を超えないまま 3115(10/14 安値)を割り込むようだと、日経平均との「未確認」が決定づけられます。この場合、第(5)波は既に天井を打ち、調整局面に入った可能性が高いでしょう。

一方、3264 を上回ると「未確認」は解消され、上値目標 **[3323]**を目指す可能性があります。

[3323]…20 年 3 月安値から 24 年 7 月高値までの上昇幅、すなわち第(1)波～第(3)波のネット上昇幅と、25 年 4 月からの第(5)波上昇幅が、「1 : 0.618」になる水準



[日経平均]

39,850 円(8/4 安値) 以来の上昇はマイナー級・第 5 波です。さらに、46,910 円(10/15 安値) からの上昇は第 5 波中マル v 波です。

10 月 20 日は 1603 円高となり 49,185 円の高値引けでした。これにより、[48,896 円][48,964 円][49,032 円][49,074 円]、これら **4 万 9000 円** 処に集まる目標価格すべては達成されました。

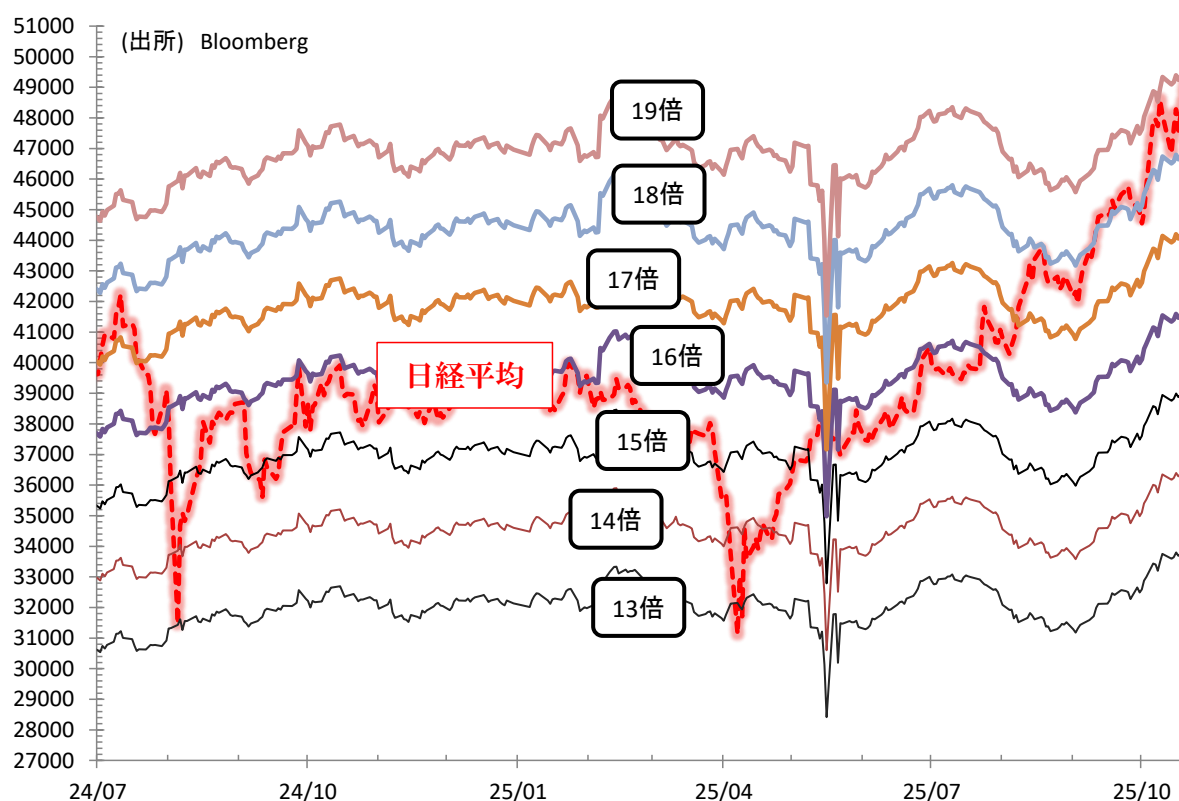
今後 48,317 円(10/16 高値)を終値で下回ると天井打ちの可能性が高まるでしょう。

一方、上値を試す基調が続く場合には、**[49,616 円][50,569 円][50,745 円]**などが注目レベルとなります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

10 月 20 日の日経平均予想 PER は 18.86 倍・予想 EPS は 2607 円。

予想 EPS は過去最高を更新しました。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

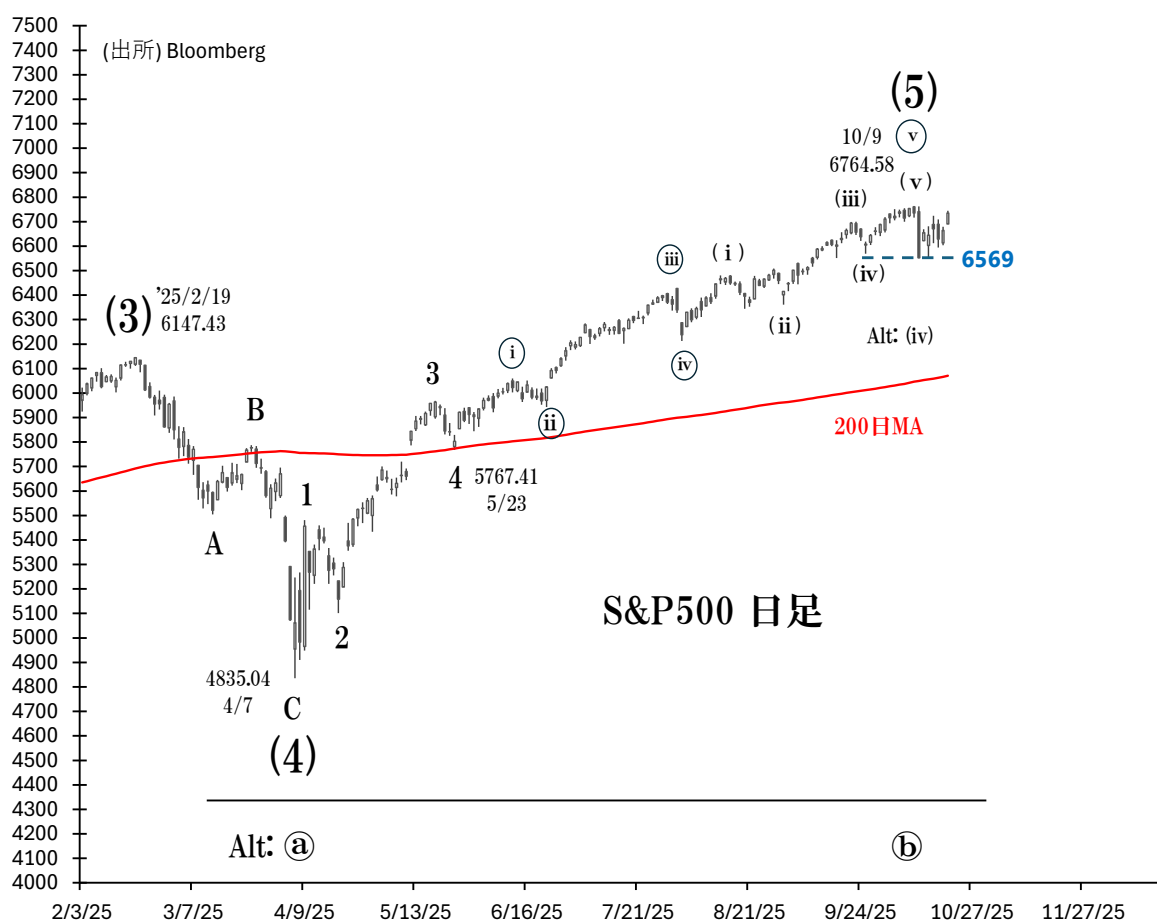
22 年 10 月安値(28,660ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年 4 月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。

第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から 20%安となるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における⑥波とカウントされます。このシナリオでは、近々訪れるであろう下げ局面でも 4 月安値(36,611ドル)は維持されるでしょう。その後 1~2 年程度のもみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。

NY ダウは 10 月 3 日に日中高値の 47,049ドルを付けましたが、S&P500 の最高値は 10 月 9 日、ナスダック 100 のそれは 10 日です。これら **主要指数間の「未確認」**は米国株相場が重要な転換点を迎えたことを示唆しています。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

今年 5 月安値(5767)からの上昇第 5 波は延長し、第 5 波中マル v 波も延長を起こしています(5th wave extension of 5th wave extension)。しかし、それも最終局面とみられます。

実際、6764(10/9 高値)でピークアウトの可能性もあり、足元はその可否を見極める局面です。

今後 6569 を終値で下回ると弱気トリガー、大きな調整入りが示唆されます。

【S&P500 長期エリオット波動分析】

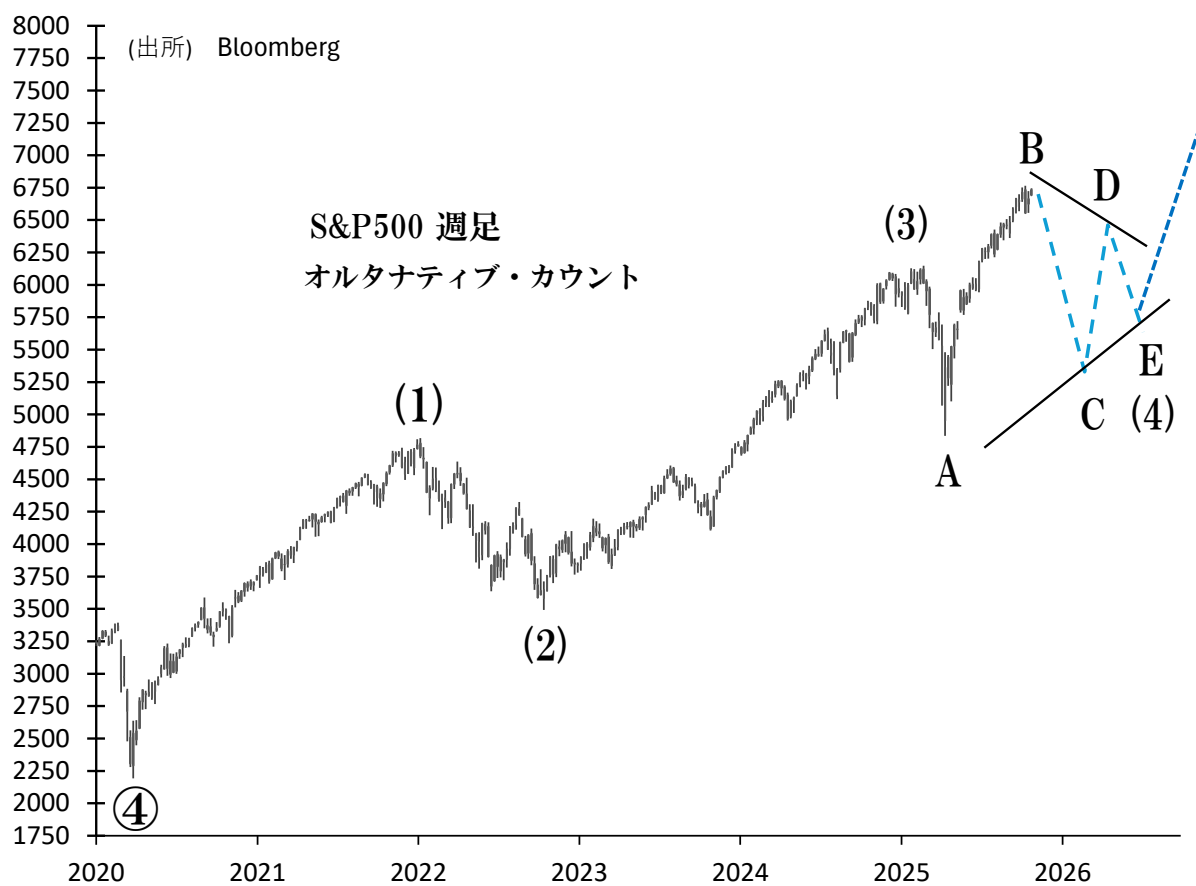
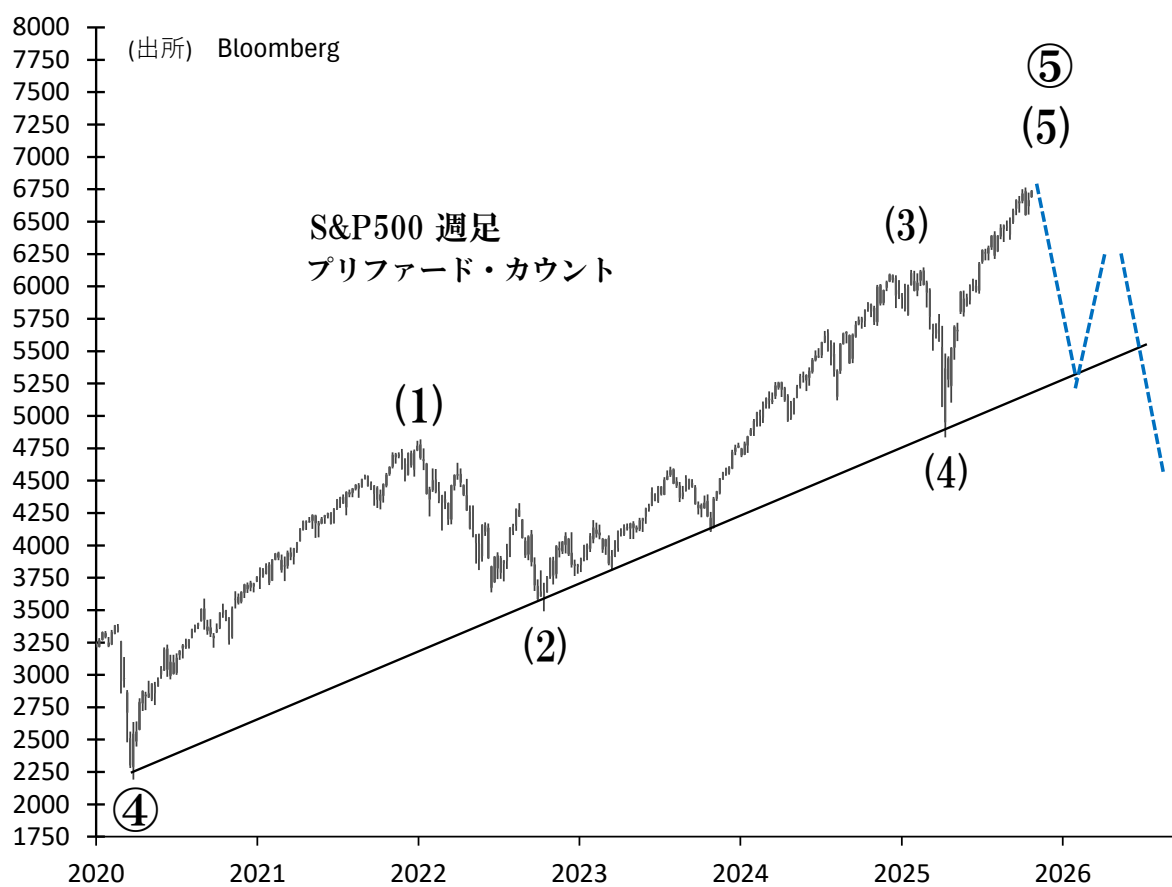
(プリファード・カウント)

4 月安値(4835) からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは 4 月安値を大きく下回ることが予想されます。

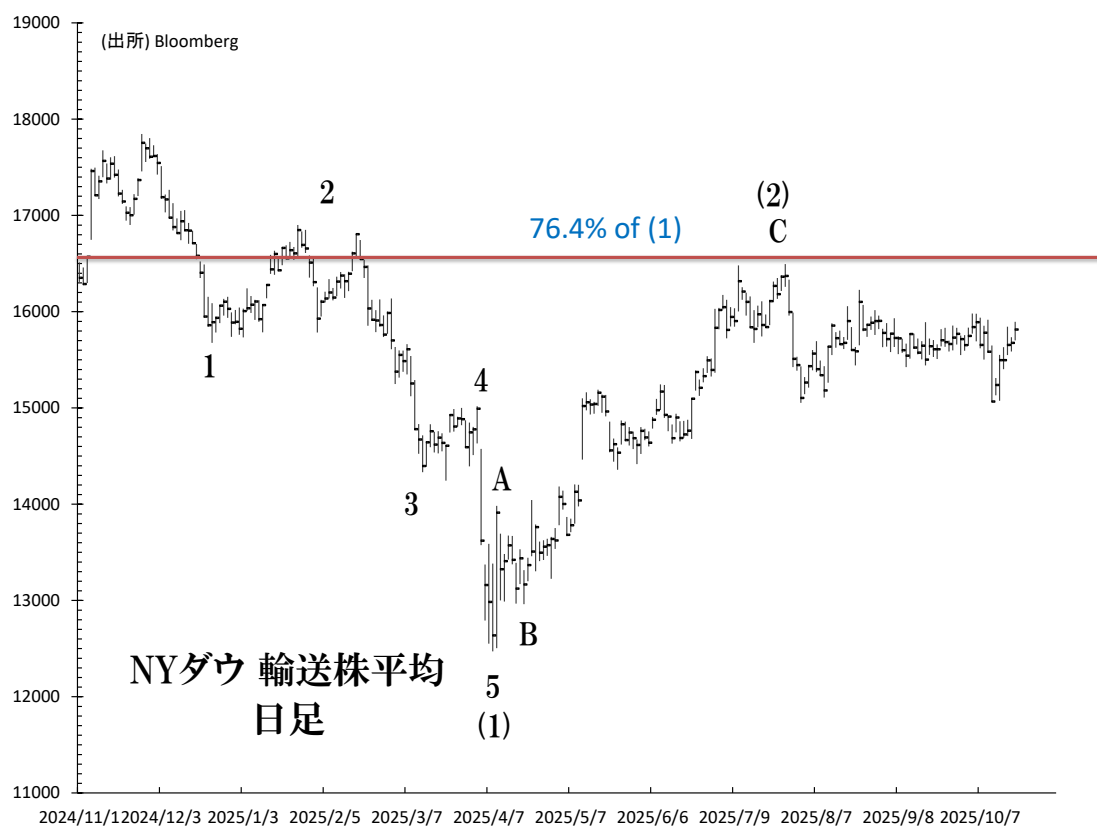
(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

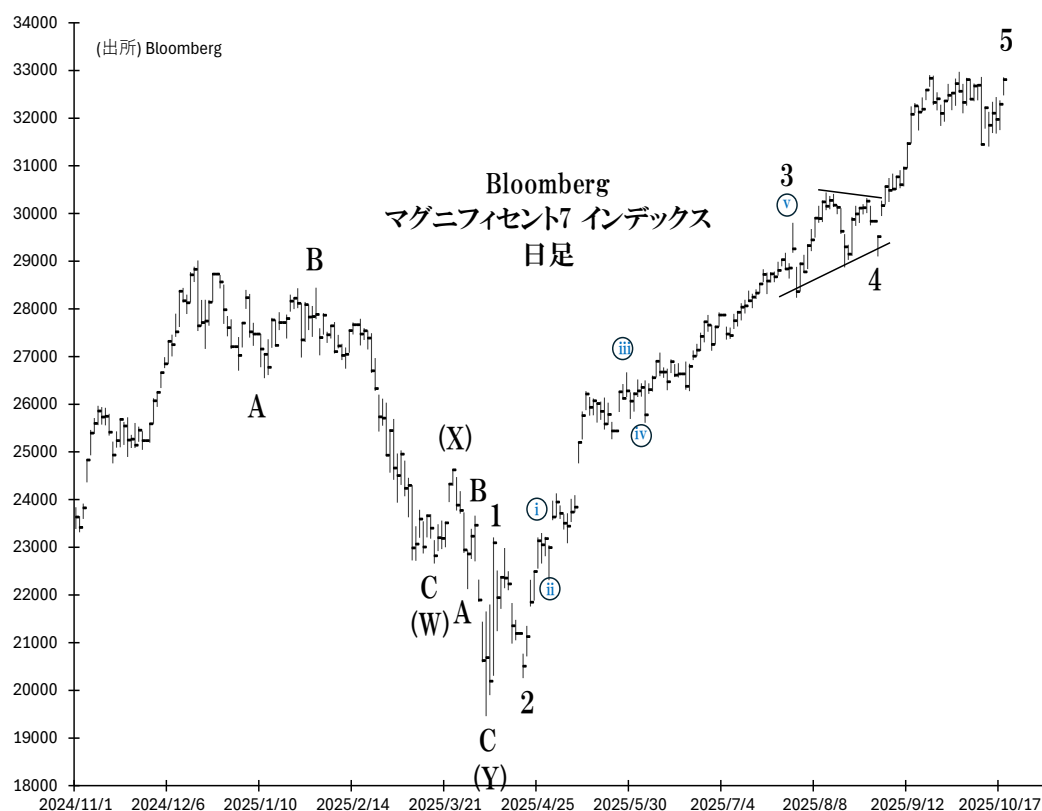
近々⑥波の下げがスタートし、それは②波(2 月～4 月)下げ幅に対し 62%～66%の大きさ(813～866 ポイント)になるでしょう。この⑥波により S&P500 は、5400 を下回る展開になりそうです。



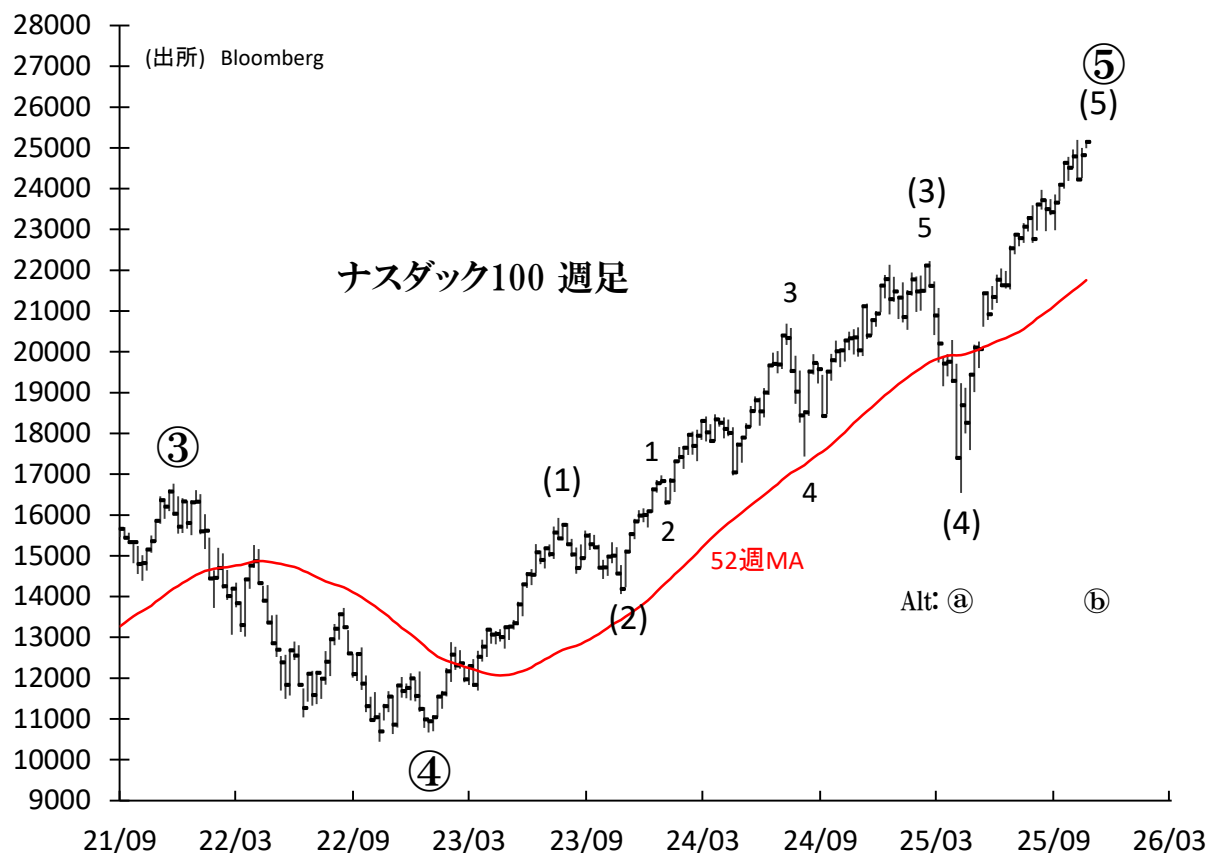
[ダウ輸送株平均] ダウ工業株平均と長期にわたる「未確認」が続いている



[マグニフィセント7] 4月からの5波構成による上昇は完了か



ナスダック



【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

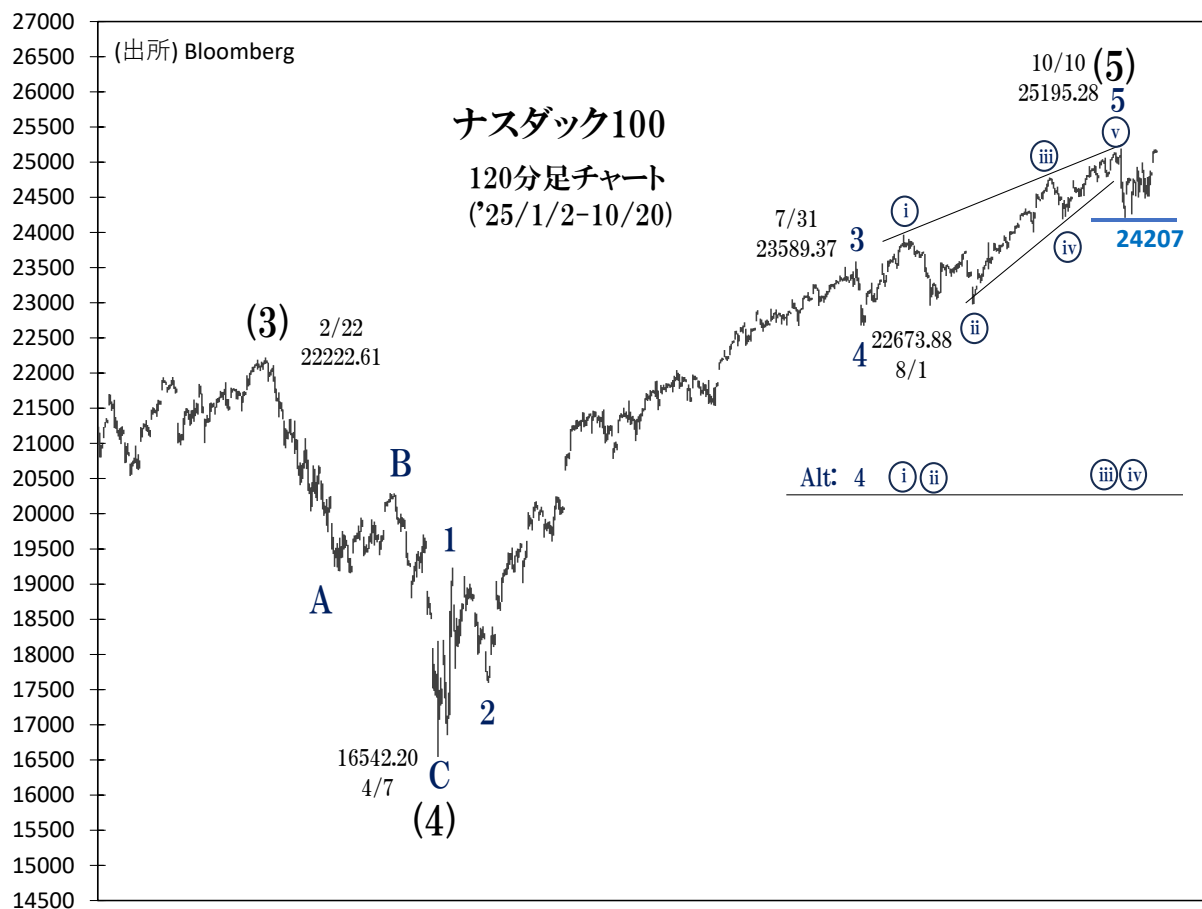
(プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当するとみられ、それはいつ終わってもおかしくありません。この第(5)波を以て2002年10月底を起点とする、プライマリー級の5波動(①波～⑤波)による上昇トレンドはすべて完了することになります。

近いうちに調整局面が始まるとみられますが、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中B波に当たります。これはS&P500のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からずC波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでもC波の下げ幅はA波のそれに対し62%～66%となり、B波の高値からは3500～3750ポイントの下げになるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇はインターミディエイト級第(5)波とみられます。

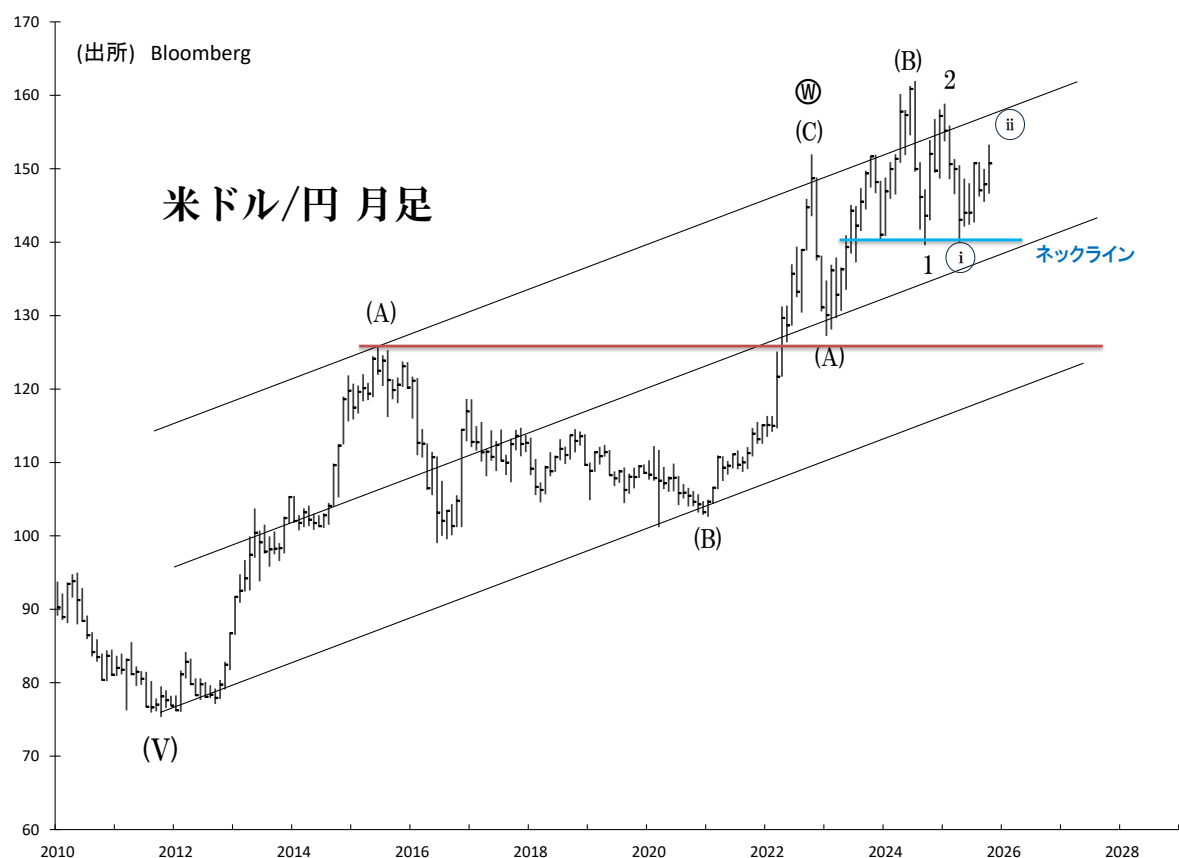
目先の、以下二通りの見方ができます。

ひとつは、25,195(10/10 高値)を以て第(5)波が終わった、というものです。10 月 20 日には一時 25,183 と高値に肉薄していますが、この見方によれば高値更新とはならず、むしろ急落局面が近いでしょう。24,207(10/10 安値)を割ると弱気トリガーが発動し、「ダイアゴナル」の始点である[22,673]へ速やかに水準を切り下げるでしょう。

もうひとつは、24,207(10/10 安値)から、マイナー級第 5 波中マル v 波の上昇が展開している、というものです。これによると、マル v 波は高値を更新し、[25,502](マル i 波とマル v 波が等しく上がる水準)付近を打診する可能性があります。このマル v 波を以て強気相場は完了します。

いずれの波動カウントにおいても、**大きな調整の開始は時間の問題**といえそうです。

米ドル/円

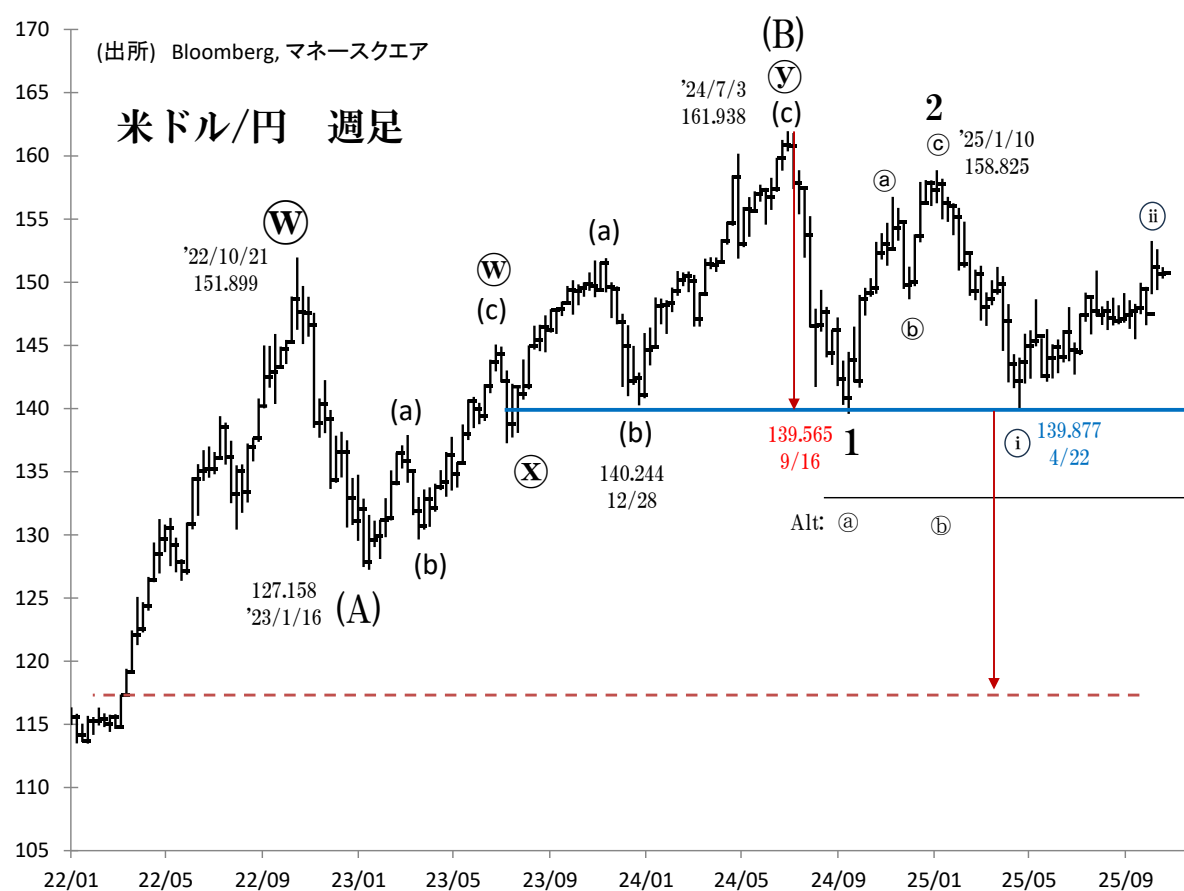


【月足・エリオット波動分析】

16 年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は 2028 年 4 月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は 28 年 4 月頃までのどこかの時点で、1ドル=125 円～120 円へのドル安・円高になる可能性をみています。

4 月下旬からドル/円はじり高が続いてきましたが、それも終わったか終わりつつあります。これからはドル安・円高トレンドがいつ再開してもおかしくありません。

おそらく 26 年前半にもドル/円は、139 円処のネックラインを明確に割り込むでしょう。それをきっかけに、「サード・オブ・サード」の強いドル安・円高トレンドが鮮明になるでしょう。



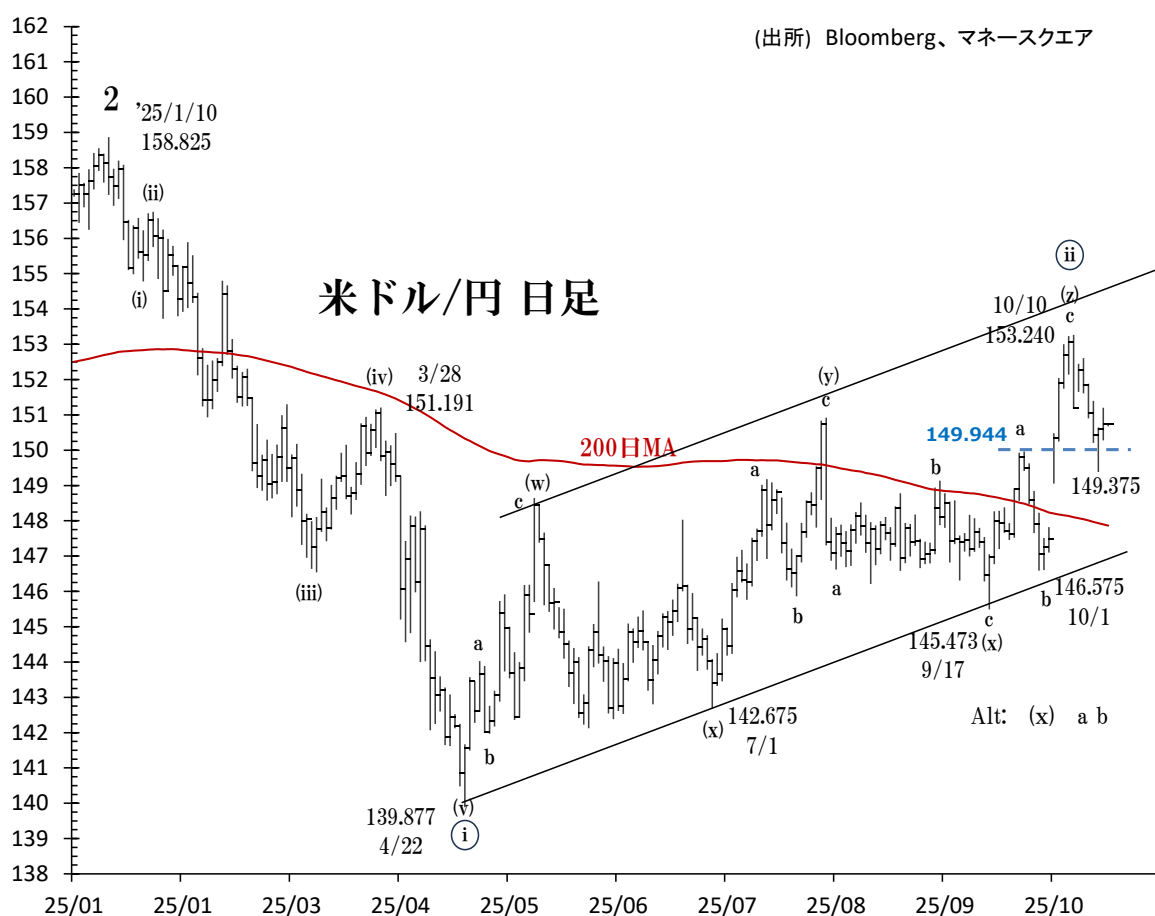
【週足 エリオット波動分析】

今年 1 月 (158.825 円) からは第 3 波によるドル安・円高に当たります。

この第 3 波を構成する副次波のうち、139.877 円(4/22)からの上昇は、マル ii 波に相当します。

これまでの筆者の予想 (1 ドル=151 円～154 円を目指す展開) は 135.240 円(10/10)によりほぼ達成されており、ここからはマル ii 波完成後のマル iii 波による下落 (ドル安・円高) に対する備えが必要でしょう。

第 1 波と第 3 波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。ヘッド・アンド・ショルダーズに基づく垂直目標値は 1 ドル=120 円割れです。



【日足 エリオット波動分析】

4 月からのマル ii 波によるドル高・円安「トリプル・ジグザグ(w)-(x)-(y)-(x)-(z)」は、153.240 円(10/10)で—1 月からの円高の 76.4%戻り水準[154.353 円]には少し足りませんが—終了した可能性があります。

今後 149.944 円を NY 市場の終値で下回ると、マル ii 波の完了及び、マル iii 波によるドル安・円高開始の可能性が高まるでしょう。そうなれば当面は 200 日 MA の 148 円処、さらに 146.575 円(10/1)を試す展開となりそうです。

オルタナティブ・カウントは、146.575 円(10/1)が(z)波の始点であり、149.375 円(10/17)から(z)-c 波によるドル高円安というものです。この見方によれば短期的にも 153.240 円を上回るでしょう。しかし、それを以てマル ii 波は完成するでしょう。

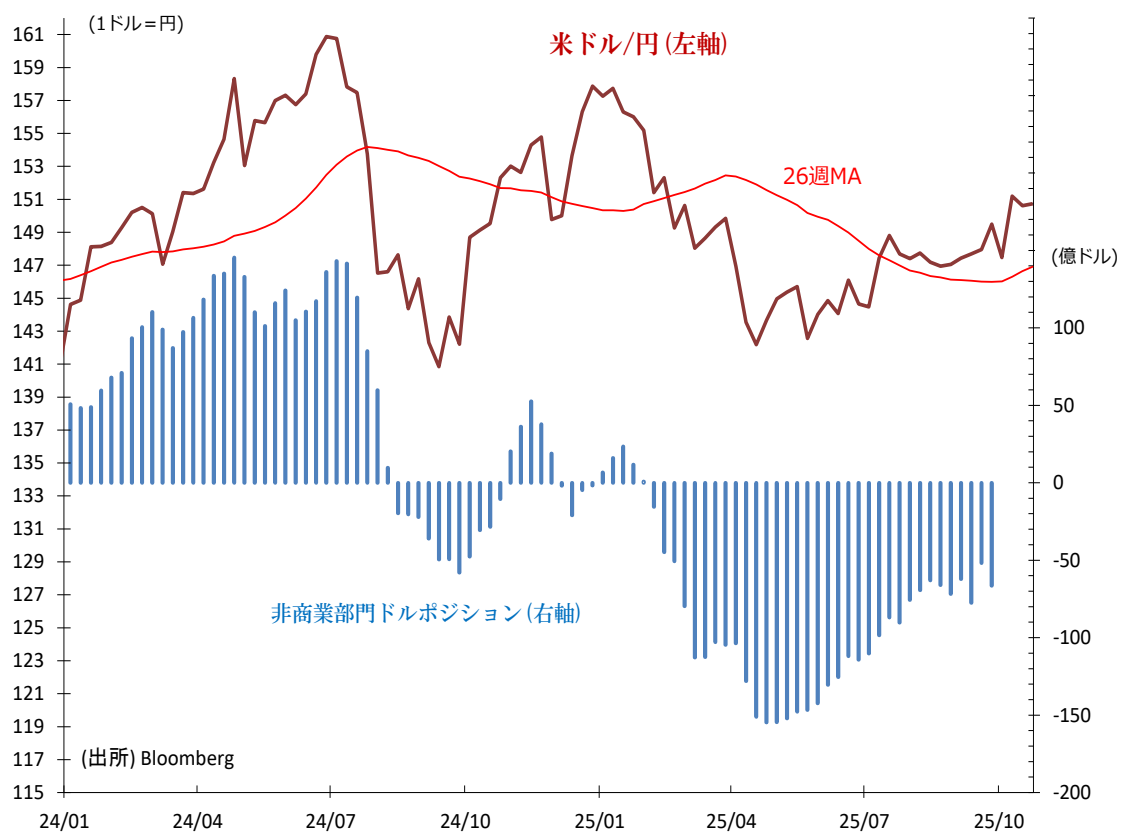
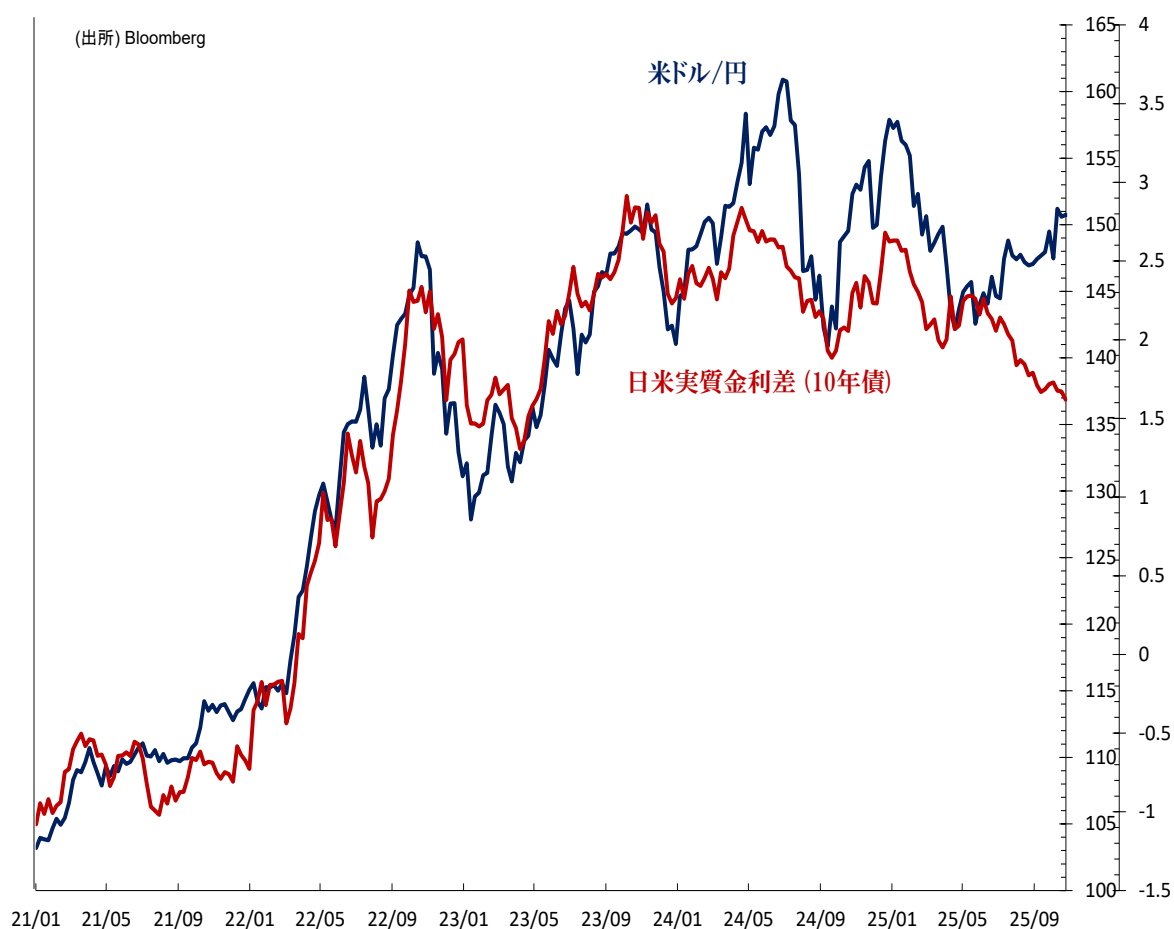
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.356 円]です。

投機筋の円買い持ち高が拡大(2025 年 9 月 23 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高が前週の 51.9 億ドルから 66.47 億ドルへ拡大しました。

(注)10 月 1 日に米政府機関が閉鎖となり、建玉発表は停止しました。





そうであれば、当面は C 波のドル安に対する 38.2%戻り水準[101.550]を目指すでしょう。

筆者は、ドル安⑤波は短くとも2028年頃まで続くとみています。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
